

個別の教育支援計画・個別の指導計画（講師：増本 利信）

○学習指導要領における個別の指導計画・個別の教育支援計画の位置づけ

障害のある児童などについては、家庭、地域及び医療や福祉、保健、労働等の業務を行う関係機関との連携を図り、**長期的な視点**で児童への教育的支援を行うために、個別の教育支援計画を作成して活用することに努めるとともに各教科等の指導に当たって、**個々の児童の実態を的確に把握**し個別の指導計画を作成し活用することに努める。

○個別の指導計画とは … 具体的な指導の為の計画

一人一人の障害の状態等に応じたきめ細かい指導が行えるように、学校における教育課程や指導計画、当該児童生徒の個別の教育支援計画をふまえ、より具体的に児童生徒一人ひとりの教育的ニーズに対して、指導目標や指導内容・方法等を盛り込んだもの

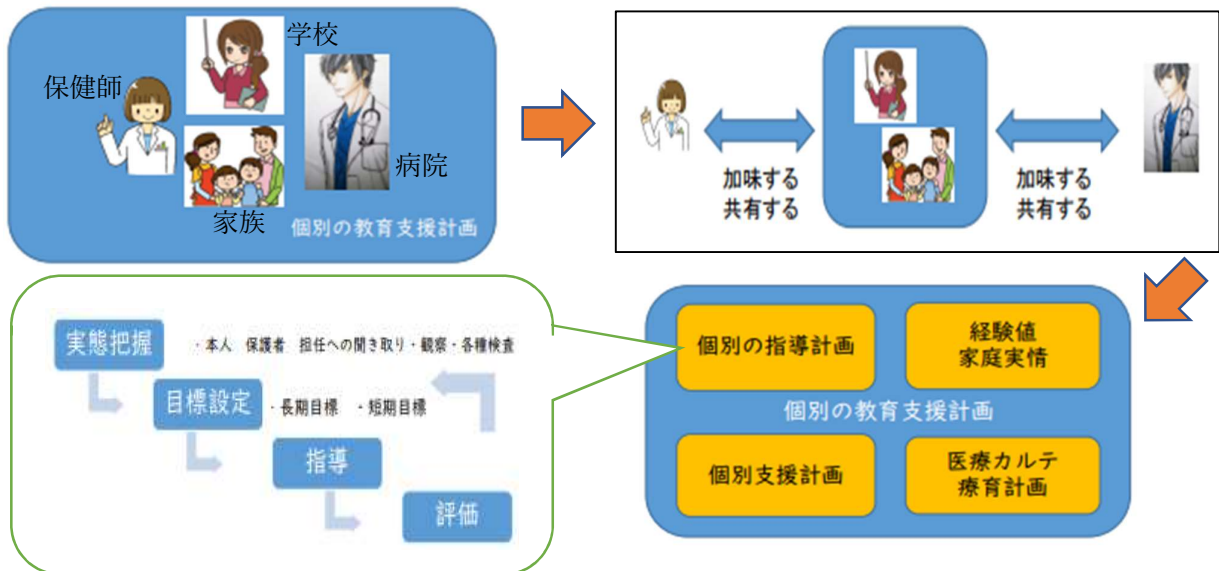
○個別の教育支援計画とは … 長期的な教育支援の計画

障害のある児童生徒の一人ひとりのニーズを正確に把握し、教育の視点から適切に対応していくと言う考えの下、長期的な視点で乳幼児期から学校卒業後までを通して一貫して的確な支援を行う事を目的に策定された計画をいう

・個別の教育支援計画を考えるにあたって…

長い視点で連携して一堂に会して作成できるといいが。。

→ 現実的には難しい



短期目標設定のポイント

ポイント	短期目標の例
具体的・段階的・明確である	帰宅したら提出物boxにプリントファイルと連絡帳を置く
一定期間で達成が可能である	週に1度の昼休み学級全員遊びに最後まで参加する
結果が測定可能、観察可能である	学期末のまとめの漢字テストで7割の正答をする
子ども自身が意識できる	授業の「めあて」と「まとめ」をノートに転記する
優先順位を考慮する	緊急性、達成の可能性、容易度の考慮

<まとめ>

見えにくい成長のあしあとを継次的に残す事で、より正確で効率的なめあての設定ができる。支援の継続を蓄積する事で課題を焦点化できる